

2020年度シアター上映会

震災にも
負けない
民俗芸能



ごあいさつ

2011年（平成23年）3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波やその後の余震によって引き起こされた大規模地震災害は、東日本のみならず日本全体に物理的にも精神的にもそして経済的にも大きな損害と影響をもたらしました。民間民俗芸能の世界も直接間接に様々なダメージを受け、衣装や道具の損失あるいはそれを作り出す職人組織、民間芸能を支えてきた地域の護持体制、さらに伝統芸能の継承者の問題もしかりです。以前、この宗教文化ミュージアムでも早池峰神楽の研究者でその継承や伝播に関して研究を続けておられる中嶋奈津子先生をお招きしてご講演を頂き関連する問題を考えたこともありました。

さらに今年はまったく別の疫災が日本を襲っています。いまだ復興途上にある東北地方に追い討ちをかけるように新型コロナウイルスの感染リスクが襲い、民間民俗芸能にとって重要な要素である観光事業に打撃を与えました。そんな中で、津波被害の復興に立ち上がった人々の記録を映像で見ることによって、遠く離れた京都の地から、復興活動への連帯の心をもう一度新たにしたいと思います。そして、改めて当時の犠牲者へ鎮魂の祈りを届けようというのが今回の試みです。

当初は、ミュージアムのシアターにお集まりいただいて大きなスクリーンで記録映像を見ていただき、森美和子さんの篠笛による鎮魂の演奏を聴いていただくとう計画したこのシアター上映会でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、無観客で実施せざるを得なくなりました。何卒ネット配信されるこの公演をご覧いただいた皆様に、ご寄付のお願いを申し上げます。東北の民間民俗芸能復活の後押しを何卒宜しく願います。

佛教大学宗教文化ミュージアム

ご寄付について

【復興支援先】 大槌町郷土芸能保存団体連合会 様

【支援の方法】 振込先などの詳細は当館 Web をご覧ください。



凡例

1. 本書は、佛教大学宗教文化ミュージアム 2020 年度シアター上映会「震災にも負けない民俗芸能」（2020 年 9 月 26 日 [土]）の開催にあたり作製したものである。
2. 解説の執筆は、森美和子氏（篠笛奏者）、小野田俊蔵（当館館長）、長谷川奨悟（当館学芸員）がおこない、編集は長谷川奨悟がおこなった。
3. 本書表紙の背景は、国土地理院が運営 / 公開する「地理院地図（電子国土 Web）」を使用した。また、ここに掲載する写真は、本館が所蔵するものおよび、阿部武司氏（東北文化財映像研究所 所長）、森美和子氏より提供いただいたものである。
4. 本書記載内容について、当館および森美和子氏、阿部武司氏の許可なく転載・複製はご遠慮いただきたい。

鎮魂の祈り

神楽といえば、厳かな儀礼を伴った古代の宮廷神楽や、近世に日本の津々浦々に広がった芸能的なお神楽を思い浮かべる方が多いと思います。神の座と書く場合もあり、神さまにその場にご臨席いただいて舞楽を奏上する場とみなされることが一般的ではないかと思いますが、一部の神楽にはこれとは違う意味合いが含まれていることが報告されています。つまり、思いをこの世に残した新霊（あらたま）や中有でさまよう靈魂を鎮めるための念仏儀式を行ない、それに加えて、神楽による鎮魂が行われる場合が中世の神楽儀礼にはあったようなのです。時には靈魂をオラクル（神子）に寄り付けさせ、口寄せしたりしながら、その前で鎮魂の神楽の能を舞う儀式さえあったようです。例えば、陸中・八戸周辺の権現祈祷の墓獅子、墓念仏などの念仏神楽などにそのような類例が読み取られるようです。これらの神楽の舞台は墓場なのです。

念仏行は、本来は念仏の功德をもって自分が死後に浄土へ往生するための行です。しかし回向や追善という考えが一般化する時代になると、残された遺族が功德を積み、その功德を死者に回向して、少しでも良い来世を得られるように祈るという風に変化して行きました。庶民の当然の願いだと思います。ましてや、不慮の死を迎えざるを得なかった人々を目の前にするとその思いは深くなります。不慮の死を迎えた人間にはもう自分の力で功德を積むことなど、しようと思っても出来ないのですから。

こちらは仏さん、こちらは神さまという様に分けて考える人がいますが、庶民の「仏さん」は、仏教哲学で説明される三身説の仏陀のいずれかを意味する訳でもなく、庶民の「神さま」は、神道理論に基づく八百万の神話系譜上の神でもありません。以前私はダライラマ14世の側近の高僧を連れて京都の社寺を通訳しながら案内する役目を仰せつかったことがあります。知恩院参拝のついでに平安神宮の横を通ったので、観てみますか?と言って参拝したのです。その時にその高僧が真剣な作法で平安神宮のご神体に向かって礼拝するので、私は「あれは神道の神ですから、仏教者は礼拝する必要はない」と言ったのですが、えらく叱られました。聖なるものに神仏の違いなどない、と注意されたのです。

日本の中にも、神と仏の関係について様々な議論がありました。死者と神仏との関係について平田篤胤などの国学者の考えかたでは、人は死して必ず仏となるという訳ではない。死後の靈魂の中にはこの世に止まり、子孫繁栄の守護神となるものもある、と考えていたようです。仏教的にはまことに突飛な考えかたではあるのですが、目の前のそこに死者の魂がいますという考え方は多くの日本の庶民に受け入れやすい考えかただったと思います。それと同じように、思わぬ災害に突如出会い、命を落とした魂は、そう易々と簡単に来世へ赴くとは考えられないのです。肉親を突然の不幸で亡くした人々はただただその魂に、安らかに過ごして欲しいと願っています。その人たちが日常の中で思いを灌ぎ込んだ神輿や神楽や剣舞をかつての日常そのままに伝えていくことは「鎮魂」そのものなのです。

佛教大学宗教文化ミュージアム館長 小野田 俊蔵

【講師】篠笛奏者 / 森美和子氏



Profile

1995年より演奏活動を始め。日本の民俗芸能や伝統芸能で用いられてきた竹の横笛、その音を祭事から離れて現代の音楽として成り立たせるべく、吹き方や曲を模索し、様々な公演を企画・出演。また大阪、京都で篠笛教室を開き、指導を行っている。

同時に、笛を始めた頃より日本各地へ足を運んで民俗芸能を見聞し学ぶ。岩手県の民俗芸能“鬼剣舞”（おにけんばい）を、北上市岩崎地区の師匠方に習い、1998年「岩崎伝京都鬼剣舞」発足に参加、笛方を勤める。2012年、正式に伝授され「京都鬼剣舞」となる。

能楽の笛を一噌幸弘に師事。奄美民謡を上村藤枝に師事。日本民謡を藤田周次郎に師事。

東日本大震災後の民俗芸能 京都から想いを馳せて

東日本大震災から数年が経ったころ、復興が進んでいるような報道も多くなって、京都ではあまり震災について語られなくなってきたような気がしていました。それで、一年に一度、震災のことを忘れないように、追悼の場と、考える機会をつくろうと思い立ち、同じ想いを持っておられた京都市内のギャラリーで「朔の灯」という催しを三月に開くようになりました。震災後の民俗芸能の記録映像上映と、演奏の会、ですが今年の三月は新型コロナウイルス感染症拡大により自粛要請が出た時で、中止となりました。そんな折、本シアター上映会出演のお話を頂き、有り難く存じます。

私は伝統的な祭のない土地で育ちました。笛を吹き始めたごく初期に、岩手県の民俗芸能を習い、自然に東北の芸能に惹かれていきました。数年後、その芸能のお膝元に初めて訪れた時はカルチャーショックを受けました。地域に根ざした芸能の在り方、人の感じ、ことば、諸々。また同じ笛なのに、自分の出す音とは別物でした。それからというもの毎年訪れるようになって、24年が経ちます。芸能が生活の中で生きていて、継承されている土地と人との出逢いは、私が笛を吹いていく上での大きな力になっています。

沿岸部へは、神楽を観に何度も行きました。一月から三月の間に沿岸部を巡行する「黒森神楽」の夜神楽を地域の方々と一緒に観たり、神楽宿と呼ばれる大きなお屋敷での“舞い立ち”と呼ばれる儀式に同席させて頂いたこともありました。地震の後、その地域も津波で大きな被害を受けました。震災後の夏、三陸沿岸を呆然と車を走らせていただけで何もできない自分がいました。たくさんの音楽家が被災地に音楽を届けに行っていました。岩手の芸能から影響を受けた私が彼らの前で吹くなどとは考えられなかったし、その土地の人にとってはその芸能こそが必要なんだと思っていました。

生活の復興もままならない中で、それぞれの地域で芸能は次々に執り行われていきました。震災後、地域復興のためにいかに民俗芸能が重要な役目を果たしたか。また、なんと多彩な芸能が各地に息づいているのかということ、今回の映像を観ることで、あらためて感じ、考えたいと存じます。



黒森神楽の廻り神楽（2012年撮影）



権現様に手を合わせる（2012年撮影）

Web

- ◆ 「笛ふき 森美和子 ホームページ」

〈 URL : <http://fuefuki.org/> 〉



- ◆ 「京都鬼剣舞」

〈 <http://kyoto-onikenbai.fuefuki.org/> 〉

- ◆ 「笛ふき 森美和子 ブログ」

〈 URL : <https://shinobue.exblog.jp> 〉

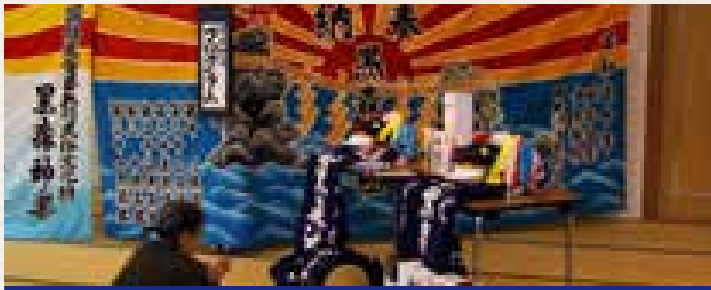


岩手県沿岸地方の民俗芸能および祭礼・行事

● : 民俗芸能や祭礼行事の大まかな伝承地
赤字 : 記録映像中に登場する芸能や祭礼行事



注) 本図は、国土地理院が運営する地理院地図をベースとし、掲載する民俗芸能や祭礼・行事の所在地などについては、阿部武司 (2012) を基に作図した。



国指定重要
無形民俗文化財

黒森神楽 くろもりかぐら

黒森神社での芸能披露の他、神社の権現様(獅子頭)を奉じて、1か月余の間、各地の民家などに泊まりながら巡業する〈廻り神楽〉の風習がある。

地域の家々を訪れ、厄払い、家内安全などの様々な願いに応じた演目、多彩な内容の夜神楽など他に類例の少ない神楽であり、芸能の変遷過程や地域的特色を示す民俗芸能である。

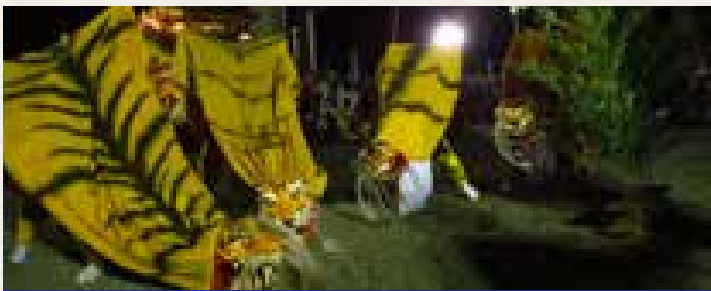


岩手県指定
無形民俗文化財

菅窪鹿踊 すがくぼしおどり

田野畑村菅窪に伝承される菅窪鹿踊は、囃子に合わせて身体を被う幕を内側から動かして踊る幕踊系に属し、一人立ち8頭で構成される。同一の踊組が鹿踊から剣舞を踊る珍しい芸態をもつ。

鹿踊りは、鹿頭が野生鹿を象っていることが特徴的で、菅江真澄の「奥南部の鹿踊面写生図」に類似するなど芸能史的に注目される。



岩手県指定
無形民俗文化財

虎舞 とらまい

大槌町や釜石市など県沿岸部に伝承される虎舞は、風流獅子踊りの一種で、頭は獅子ではなく虎頭を使うのが特徴で、全国的にも稀な存在とされる。

大太鼓・小太鼓・笛・手びら鉦の囃子に若者の掛け声が入り、踊りは虎頭から下がる布胴に2人が入って激しく踊る。釜石市では船渡御の船上もみられ、大船渡や陸前高田市などでは梯子虎舞が伝わる。



岩手県指定
無形民俗文化財

浦浜念仏剣舞 うらはまねんぶつけんばい

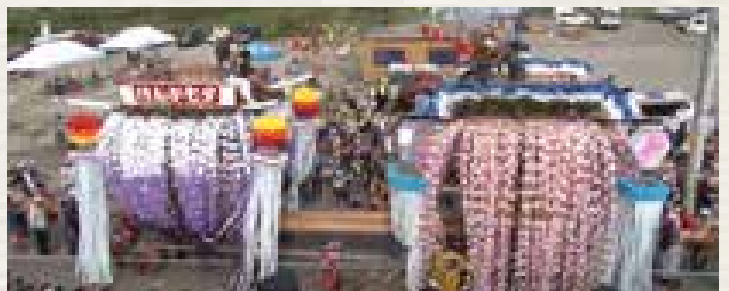
大船渡市三陸町越喜に伝承される浦浜念仏剣舞は、江戸時代中期に始まったものと推定され、中断を繰り返しながら、昭和47年に浦浜青年団が復活させ、保存会を結成している。現在でも盆の庭踊りが行われるなど、演目や踊りの伝承形態もよく、気仙地方の代表的な剣舞のひとつで、ササラは香炉を持ち、踊り手が焼香する儀礼的要素に特色がある。



国指定重要
無形民俗文化財

吉浜のスネカ よしはまのすねか

三陸町吉浜では、小正月の夜に鬼とも獣ともつかない面をつけ、みに身を包んだ訪問者「スネカ」が家々を訪れる。冬の間、囲炉裏に長くあたって火斑ができた怠け者の「脛皮」を「たくる」ことを意味する「スネカワタグリ」を縮めたもので、久慈地方では「ナモミ・ナマミ」、宮古地方では「ナモミタクリ」などと言われる沿岸部独特の風習である。



岩手県指定
無形民俗文化財

気仙町けんか七夕祭り けせんちょうけんかたなばたまつり

陸前高田市の七夕祭りは、8月上旬〜7日に夏祭りとして行われ、最も特色ある内容をもつ気仙町の「けんか七夕」のほか、高田町の「動く七夕」、小友町の「海上七夕」がある。前近代から受け継がれる歴史を持ち、戦後、一時期衰えたが、間もなく復活し、現在、荒町・上八日町・下八日町・鉄砲町の4町内が山車を出し、実行委員会を設けて実施している。

《岩手県の民俗芸能や祭礼行事に関する情報》

「いわての文化情報大辞典」(<http://www.bunka.pref.iwate.jp/>)
岩手県文化スポーツ部文化振興課



東北文化財映像研究所の記録映像の一部はこちらから!
「Japanese folk performing arts 東北文映研ライブラリー映像館」
(<https://www.youtube.com/c/asaproobe/featured>)



2020年度シアター上映会

震災にも負けない民俗芸能

発行日 2020年9月26日

発行 佛教大学宗教文化ミュージアム
〒616-8306

京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26
Tel 075-873-3115 FAX 075-873-3121

動画を視聴された皆様へ

ミュージアムのシアターにお集まりいただき、大きなスクリーンで記録映像を見ていただき、森美和子さんの篠笛による鎮魂の演奏を聴いていただこうと計画したこのシアター上映会でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、無観客で実施せざるを得なくなりました。ネット配信されるこの公演をご覧いただいた皆様に、被災された東北沿岸部で活動される民俗芸能団体の復活の後押しに、活動支援のご寄付のお願いを申し上げたいと思います。

なお、当初は上映会の鑑賞料の一部を当館から民俗芸能団体へ寄付させていただく予定でしたが、無観客で実施となりましたので、このようなご支援のお願いをとることといたしましたことを申し添えます。

■ 寄付をさせていただく団体

大槌町郷土芸能保存団体連合会 様

■ 復興支援の方法

寄付される金額を下記の振込先銀行口座に、直接お振込みください。

(※ 振込手数料が発生する場合がございます)

■ 振込先

岩手銀行大槌支店 普通 1000310 大槌町郷土芸能保存団体連合会 会長平野栄紀

佛教大学宗教文化ミュージアム